

GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1. 早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	廃棄物・資源循環分野におけるカーボンニュートラル実現

2. 具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	廃棄物・資源循環分野におけるカーボンニュートラル実現
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	自社工場内に、養鶏糞等を原料とするバイオ燃料（バイオマス固形燃料）を用いた「バイオマス発電設備」を新たに導入します。その際、生じる廃熱を原料の乾燥工程に有効活用することでエネルギー効率を最大化します。製造したバイオ燃料を自社で消費（調達）し、当社の月間電力消費量（約70,000kWh）の一部を賄うことで、中間需要家としてGX製品の活用と社会の脱炭素化を推進します。また、休日等で自社の消費量を超過した電力については電力会社へ売電を行い、地域の脱炭素化にも貢献します。

3. サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4. 温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	廃棄物・資源循環分野におけるカーボンニュートラル実現
削減対象	Scope 1 + 2
目標年度	2030年度
基準年度	2020年度
目標削減率	30%

削減目標における選択対象の位置づけ	自社工場内に導入する養鶏糞由来のバイオ燃料発電により、既存の購入電力を自社製造のバイオ燃料由来電力に代替することは、当社のScope 2の排出量削減目標の達成に直接的に大きく貢献します。さらに、廃熱を燃料の乾燥工程に再利用することで、追加の燃料消費を抑え、自社事業活動全体での徹底した脱炭素化を実現します。
-------------------	---

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	廃棄物・資源循環分野におけるカーボンニュートラル実現
目標年度	2030年度
定量的目標	バイオマス発電設備 1 台
選択対象に関する定量的目標の概要	2030年度までに「バイオマス発電設備」を【1台導入】し、本格稼働させることを目標とします。本設備の導入により、当社の月間電力消費量（約70,000kWh）の一部をバイオマス発電による電力で代替（調達）する見込みです。また、休日等で自社の電力需要を超える発電分については売電を行います。（※ただし、本計画は現時点における当社の導入構想に基づいたものであり、今後の技術検証・開発の進捗や実証試験の結果等に伴い、実際の設備仕様や導入計画に変更が生じる可能性があります。）

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	自社単体
------	------

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

2026年4月17日

株式会社ユーティエス
新規事業部マネージャー 中野 渉